

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（営業推進担当）	それ以外	・セールにより、売上は大きく伸びている。良い物をより安く購入する消費者が増えている。	
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・高速道路料金引下げの開始により、ETC車載器が売れている。	
	やや良く なっている	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・昨年暮れからマスコミ報道で、倒産等が多く取り上げられ、関係ない高齢者の購買意欲が低下していたが、その購買意欲は少しずつ上昇している。	
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・例年3月31日は母の日に次いで忙しい日であるが、これまでで一番良い売上となった。需要があれば売れる。	
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3月にリニューアルオープンしたが、来客数は前年比130%に増え、売上も好調である。商圏内になかったブランドを導入した事がプラス要因となっている。景気が悪くても、客のニーズに合った物を提供すれば売れる。	
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・客の話によると、定額給付金の使い道は身の回り品の購入という声が聞かれ、やや良くなる。	
	変わらない		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・パソコンの抱き合わせによる販促が奏功し、販売量が飛躍的に伸張した。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・卒業や就職、進学等により出費が重なり、家計が圧迫されている。客は買物を控える傾向にあり、客単価が下がり、来客数も減少している。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・消費者の購買意欲が全くなく、物が売れない。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・例年、物が動く時期であるが、販売量は増えない。天候の影響もあるが、今月末は特に悪い。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・不景気に関する報道がやや落ち着いており、消費行動も少し安定している。
			一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・新規客の来店が少しずつ増えている。一方、昔からの客の来店が減っている。
			一般小売店〔茶〕（販売・事務）	単価の動き	・個人客も事務所もお茶の注文間隔が延びており、消費者の節約は続いている。必要商品だけの注文が多い。
			百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数、レジ客数の減少に加え、買上単価も前年割れとなっている。また、バーゲン売上のシェアが低下している。食品を核とした物産催事は、前年を確保している。各地の銘菓や実演等現地に行かなくても、地元で気軽に旅気分を味わえると好評である。消費者の食と旅への関心は維持している。
			百貨店（営業担当）	販売量の動き	・婦人用・紳士用の衣料品が不振である。
			百貨店（売場担当）	来客数の動き	・来客数、売上共に前年比1割減で推移している。買上単価と1品単価については、前年と同水準で推移している。衣料品は婦人、紳士共に苦戦している。バーゲン品についてはやや動きが良いが、正価販売品の動きが悪い。食品は物産店等の催事はかなり良いが、通常の商品の動きは悪い。特に衣料品が全体の売上の足を引っ張っている。
			百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・前年の11月から大幅な前年割れの状況が続いている。回復の傾向もなく、停滞感がある。百貨店として物が動く時期ではあるが、来客数は若干回復しているものの、依然前年比5%程度の減少となっている。売上や買上客数、客単価、商品単価いずれも前年比8%程度の減少となっており、苦戦が続く。
			スーパー（経営者）	販売量の動き	・先行きの不透明感により、客は無駄買いをしなくなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食品に関しては、急激な数値の変動はみられない。ただ、単価の高い商品に関して、わずかながら買い控えの傾向が出ている。			
スーパー（店長）	競争相手の様子	・大型店も厳しい状況で、平日の売上げをどう取るかがポイントになっている。来客数が前年比97%と減少しており、買上点数が増えるよう販売促進をしている。			

スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・自社を含め同業他社も価格の引下げを行い、何とか客を呼ぼうという傾向が続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・食品小売業は好調ではあるが、ディスカウント業態や大手を中心とした値下げ、安売り競争で体力勝負となっている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・来客数は増加傾向にあるものの、単価や買上点数は減少傾向である。
コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・来客数はあまり変わらないが、たばこのみの購入が増えており、客単価、買上点数共に減っている。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の3、4割引きの販売を行い、前年をクリアした。また販売促進強化により何とか売上を伸ばしている状況である。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・春物商品が出ており、来客数は増えている。しかし客は見るだけであったり、購入しても1着程度にとどまっている。催事を行ったが、集客は厳しかった。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・購入する客には不景気感がさほど感じられないが、来客数がとても少なく、前年の売上を上回るの難しい。
家電量販店（店員）	単価の動き	・商品量の動きが前年と比べ、非常に悪くなっており、厳しい状況が続いている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算時期であり、小型車の受注が少し伸びた。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・3月は自動車業界にとって最大の需要期であるが、来客はあるものの、販売に結び付かない。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	お客様の様子	・ガソリンの小売価格は2月に比べ若干、上昇傾向にある。3月28日から高速道路料金引下げが実施され、走行後に給油する客が増加した。客からは、浮いたお金で外食をしたなどの声が聞かれた。
その他飲食[居酒屋]（店長）	来客数の動き	・来客数が少なく、厳しい状況が続いている。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・歓送迎会は前年同様の予約状況となっている。
観光型ホテル（営業担当）	お客様の様子	・旅館型ホテルは1泊2食が基本プランであるが、1泊朝食付きの要望が多くなっている。また1室1～2名の希望が多く、飲料の持ち込みも増えている。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊に関しては、個人客、団体客共に動きが鈍い。レストランにおいても企業等の接待は皆無に近く、唯一ランチのみで集客している状況である。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・韓国への旅行客数が前年比で2倍を超えている。国内はビジネス出張の自粛により、東京、大阪、沖縄方面の需要が減退している。
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・景気悪化が法人需要に与える影響が、厳しくなる一方である。
タクシー運転手	来客数の動き	・歓送迎会の時期であるが客の動きは全然なく、夜の繁華街にも陰りがみえる。全体的に売上が極端に落ちこんでおり、生活が大変だという声が社内に出てきている。
通信会社（管理担当）	それ以外	・会社の資金繰りが厳しい状態が続いている。
通信会社（業務担当）	販売量の動き	・卒業式や入試の合格発表等で平日も学生やその親を中心に来客数が増え、週末も販売は増えている。しかし全体的に買換えサイクルが長期化しており、携帯販売台数は前年を下回っている。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・個人客については、宿泊、ゴルフ共に連休と週末だけにぎわっている。また大学の卒業式や謝恩会、結婚式も例年並みの需要があった。ただし、平日の落ち込みがあり、全体としては横ばいとなっている。
ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・依然として来場者数は前年を下回っているものの、3か月前の落ち込みほどではない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・卒入学式があり、例年であれば忙しい時期であるが、リストラ等マイナス要因が多く、市場の活性化がみられない。定額給付金の効果もいまひとつである。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場への来場者数が依然、低迷している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	・商店街は相変わらず空き店舗が多く、来街者が一段と少ない。アーケードも老朽化しており、商店街の組合も破産という状況となっている。

百貨店（営業担当）	それ以外	・悪い状況が続いているが、落ち方はやや緩やかに なっている。	
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・全体的に購買量が落ちている。来客数が減ったとい うより、客の購買に対する慎重さが目立っており、接 客時間が非常に長くなっている。	
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・セールを行っても、集客できず、目玉商品ですら売 れ残る。客の消費を控える傾向が強まっている。	
百貨店（企画）	販売量の動き	・来客数、買上客数の減少に歯止めがかからない。売 上の減少傾向も続いている。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品の動きが悪く、冬物衣料は値引きをしたら売 れるが、正価販売品については動きが悪い。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価、1個単価は共に減少している。特に食品 は、低価格志向が顕著となっており、セール品の買い 回り傾向がある。衣料品は特に紳士羽織物、婦人、子 供服が不振であり、処分価格で単価を落とすものの、 売行きは良くない。	
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数、客単価共に減少している。高額商品の買い 控え傾向も続いている。	
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・精肉、デイリー、加工品は前月よりも改善傾向にあ るが、青果は2月の日照不足の影響で春物の新野菜の 入荷量が十分でなく、前月よりも苦戦している。水 産、惣菜、雑貨は前月と変わらず不調である。	
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・卒業式や行楽シーズンで通常は売上も上がるが、今 年は不景気のあおりを受け、客単価が下がり、売上全 体も前年を大きく下回っている。また、タスポ効果も 一巡し、伸び率が大幅に下がっている。	
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・春商戦の売上は前年比2割近く減少している。	
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上共に低迷しており、入学用学童机も家 具専門店での購入が年々少なくなっている。2度の キャンペーンを行ったが、厳しい状況となっている。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が少なく、活気がない。	
タクシー運転手	お客様の様子	・客の昼の動きが悪く、夜の動きも前年よりはるかに 悪い。	
タクシー運転手	単価の動き	・客の消費意欲が減退しており、低価格料金のタク シー等により価格競争も激化している。以前と同じ料 金では競争に負けるので、価格は前年比5%程度減少 している。	
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年割れが続いており、今月も前年比30%減少して いる。	
競輪場（職員）	来客数の動き	・発売額は前月比で若干伸びたが、来場者数は大きく 減少している。	
美容室（店長）	お客様の様子	・低料金の店に客が流れており、厳しい状況である。	
悪く なっている	商店街（代表者）	単価の動き	・値段を安くしないと客は購入しない。それも利益を 薄くして、ようやく購入につながる状況である。
商店街（代表者）	お客様の様子	・来街者数が減少しており、客単価もかなり低くなっ ている。	
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・例年のようなまとめ買いがなく、消費者は価格に敏 感になっており、1枚単品で購入する客が増えてい る。	
百貨店（営業担当）	それ以外	・来客数、レジ客数共に減少している。客単価も減少 し、日に日に悪くなっている。	
スーパー（店長）	それ以外	・食品の売上は前年の水準を何とか維持していたが、 3月に入り前年比3%減となっている。価格も1、2 月より値下げしているが、なかなか購入に結びつか ない。また、入園入学やホワイトデーについても前年 より客単価が落ち、全体的に売上は低下傾向にある。	
スーパー（店長）	お客様の様子	・客の購入に対して非常に慎重になっており、価格に ますます敏感になっている。まとめ買いは一切みられ ない。	
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・値下げや買上点数の減少がみられる。また、カード 顧客での特別なポイント付与など、実質的な値下げと なる販売促進企画も増え、結果として客単価は減少し ている。	
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・年が明けて状況は更に悪くなっており、今月もまた 落ち込んでいる。	
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、販売量、客単価も減少している。	

		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・依然として来客数が少なく、相変わらず値段を見るだけで全く購入する気がない客が多い。
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・春物シーズンとなり、悪いなりに来客はあるが、客との会話で、景気の悪さが感じられる。
		乗用車販売店 (管理担当)	販売量の動き	・売上は前年比7割減となっており、非常に厳しい状況である。
		その他専門店 [書籍] (店長)	来客数の動き	・日を追うごとに、身の回りに失業者が増え、物販店の売上も下がっている。財布のひもが固くなりつつあり、当分はこの厳しい状況が続く。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月後半は送別会等が少し入ったが、前半から中盤にかけては予約が入らず苦戦した。売上、来客数は前年を下回っており、景気悪化は続いている。
		高級レストラン (専務)	来客数の動き	・3月に入り、来客数は急速に減っている。客単価も下がっており、通りを歩く人の数もまばらとなっている。
		スナック (経営者)	来客数の動き	・来客数、売上が共に過去最低となっている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・鉄鋼、自動車等の製造産業が多い地域であるため、一層厳しさを増す減産状況により、関連企業等の出張による来客数が減少している。
		都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・団体客は例年通り確保できているが、個人客、特に出張客が非常に少なくなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・歓楽街の客が極端に減っている。売上は前年比10%以上落ちてきている。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・企業の新規申込が非常に少なくなっている。
		通信会社 (総務担当)	お客様の様子	・新規加入者の増加率が以前より小幅になっており、加入者の視聴料の未回収が増加している。
		音楽教室	それ以外	・自社も不況の影響で派遣切りを行っており、自社の周りも規模縮小を始めた。ハローワーク担当者に話を聞くと、1人の求人に対して300人が応募するような状況だと言う。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・年度末を迎え、物件の問い合わせが極端に少ない。例年、年度末前に駆け込み需要があるが、それさえない状況である。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・販売関係は厳しいのは変わらないが、3か月前と比べると少し良くなっている状況である。
		その他サービス業 [物品リース] (従業員)	受注量や販売量の動き	・大幅に落ち込んでいたリース、割賦の契約高が少しづつではあるが、回復傾向にある。
	変わらない	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・前半の動きは悪かったが、後半になって少しずつ良くなっている。特に今年は桜の開花が10日ほど早く、それに合わせて取引先のスーパー関連の動きが良くなっている。
		家具製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・前年比15%程度落ち込んだ状況が、家具業界では続いている。
		建設業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・例年年度末になると工事が多くなるが、今年は前年の半分以下となっている。
		金融業 (得意先担当)	取引先の様子	・期末にかけて緊急保証制度を利用した借入の申込が増えている。この傾向は年明け以降ずっと続いており、資金繰りが悪化している企業が増えている。
		金融業 (調査担当)	取引先の様子	・製造業において在庫調整等が進み、生産水準は例年より低いものの回復傾向にある。総じて景気が大きく後退する局面は落ち着きつつある。
		経営コンサルタント (代表取締役)	受注量や販売量の動き	・受注量に大きな増減がない。
	やや悪くなっている	農林水産業 (営業)	受注価格や販売価格の動き	・畜産品相場の下落に伴い、受注価格、販売価格の下落が激しくなっている。
		農林水産業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・飼料価格は円高等により、下がっている。ただ輸入量も増加し、販売価格が下がり、苦戦している。
		窯業・土石製品製造業 (取締役)	競争相手の様子	・決算に向けてメーカーはかなり厳しい状況にある。原油、一部資材価格の高騰が落ち着いているが、消費の低迷、経済の不安定、賃上げ等の問題も含め各企業、業績が悪化している。

		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は、3月としてはここ10年で最も悪い月となった。決算で商品の荷動きがあると期待していたが、月を追うごとに悪くなっている。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷動きが非常に悪くなっている。
		金融業（営業担当）	競争相手の様子	・地域金融機関は全体的にアパート新築資金等の箱物融資に慎重な姿勢である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・受注量は前年比20%程度落ち込んでいる。前月から更に低下している。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。また、経営の立て直し、経営効率化、原価削減、コスト削減等を行う企業が増えている。
悪くなっている		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・食品業界は年明けの落ち込みが終息し、持ち直してくる時期であるが、受注状況は悪い。
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今まで不景気ながら稼働していたが、今月の受注量はここ2、3年で一番少ない。周辺では半月以上休んでいる工場もある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・企画もほとんどなく、商社の在庫調整により商品の荷動きが悪く、受注生産をしている。月を追うごとに悪くなり、当社の雇用調整を検討中である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今までの客からの受注がほとんど途絶えている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は勿論、見積すらない状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関連、精密機械器具関連等の動きは鈍く、あらゆる金型関連企業で最悪の状況である。リードフレーム、コネクタ等の電子部品金型においては底知れない状態が続いており、非常に厳しい状況が続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量の動きは日を追うごとに先が見えなくなっている
		金融業	取引先の様子	・大企業の下請企業のうち、比較的体力のある企業は資金繰りが一服しているが、零細企業の資金繰りの悪化は依然深刻である。大企業からの受注の回復に目処が立っていない。
	その他サービス業	取引先の様子	・国の補助金の減少により、市町村の事業は減少し、それに伴い委託する業務も減少している。民間の事業者の受注は減少しており、最近では2つの業務、3つの業務を抱き合わせて1つの業務として発注するようになり、実質の発注金額を減少させている。これを入札で発注するため、業者は受注金額を更に抑えられる。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・求人票の受理件数は前年と同水準であるが、採用予定数が縮小傾向にある。また、採用予定数を未定とする企業や、求人活動を中止するという企業も現れ、例年にない状況である。
やや悪くなっている		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・人材派遣の入札金額は前年より大幅に減少している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・広告チラシの量が更に減少している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・取引先の求人系広告会社によると、若手社員を中心とした退職が増え、ベテラン社員も希望退職や解雇で退職している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・すべての業界において求人票の出方が思わしくない。
悪くなっている		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・各企業が4月以降の予算を作成しているが、人件費を圧縮した計画を立てる企業がほとんどである。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・派遣を終了するところも多く、休業日を設ける企業も多い。正社員の早期退職を考えている企業も出ている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数が月を追うごとに落ちている。かつてだと考えられない状況となっている。

職業安定所（職員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月の新規求職者は3,465人で、3か月前に比べ48.3%と大幅に増加している。また、パートを除く新規常用求職者のうち事業主都合で離職した人は803人で、3か月前と比べ70.5%増、前年比113.6%の増加となっており、企業の事業縮小、倒産などによる離職者の増加が顕著となっている。</li> <li>・ 新規求職者の状況を見ると、前年比31.2%と大幅に増加している。</li> </ul>
職業安定所（職員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規求職者数は前年と同程度にとどまっているが、新規求職者の減少幅が前月よりも更に大きくなっている。それに伴い、月間有効求人倍率も今年度最低であった1月の0.63倍を更新し、0.58倍となった。0.5倍台になったのは、平成18年5月以来、2年9か月ぶりとなる。</li> </ul>
職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規求人数は、前年比で大幅な減少傾向にあり、多くの産業で求人意欲が低下している状況にある。</li> </ul>
民間職業紹介機関（社員）	雇用形態の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度末を迎え、派遣社員の雇止めが前年比15%増と大幅な増加となっている。派遣先に休業手当等の請求をしても断られるケースがあり、自社の費用負担のみ急激に増加している。雇止めとなった派遣社員の新しい就業先も、募集が極端に少なく、非常に困難な状況である。民間の案件が非常に少ないなか、官公庁案件に人材ビジネス会社が集中しており、相変わらず安値の取引となっている。</li> </ul>
民間職業紹介機関（支店長）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月末の契約終了者が昨年と比べ1.5倍となっている。加えて、契約終了者の後任不補充がほとんどである。</li> </ul>